

平成 29 年度 (公社) 福岡県建築士会地域貢献活動報告

■立花口プロジェクト (九州産業大学 松野尾研究室)

代表者: 大石祐輔

申請者: 九州産業大学 建築都市工学部

住居インテリア学科 松野尾仁美

所在地: 〒813-8503 福岡市東区松香台 2-3-1

TEL: 092-673-5975

E-Mail: matunoo@ip.kyusan-u.ac.jp

活動者数: 合計 18 名

設立年月日: 平成 28 年 4 月 1 日

テーマ:

『立花口区の伝統的建造物群保存地区への選定の可能性に関連する調査研究』

□活動の目的

新宮町立花口区は「立花山」の玄関口としての役割もあり、また、築 100 年を超える古民家が多数現存するなど歴史的資源を保有している地域である。しかしながら、高齢化が進み、複数の古民家は空き家となり放置され、これらの資源を活かしきれていない。そこで、本プロジェクトでは、学生主体で望ましいまちのあり方を考え、町や地域住民にむけて地域活性化の案を提案することを目指している。特に、歴史的資源の活用に関心を置き、立花口区の伝統的建造物群保存地区への選定の可能性に関連する調査研究を行いながら、まちづくりの方向性を示すこと目的としている。



立花口の町並み

□主な活動内容

1. 全国の重要伝統的建造物群保存地区のアンケート調査

伝統的建造物群保存地区に選定された場合の町の変化やまちづくりへの効果を把握するため、全国の重要伝統的建造物群保存地区の自治体とまちなみ保存会へのアンケート調査を行った。調査の結果、人口減少社会の中、人口流出は避けられないものの、まち全体をとしては、選定以前よりも経済変化はプラスに傾く地区が多く、地区住民もまちづくりへの参画意識が高まり、全体として活性化していることが把握できた。

2. 古民家や町家を活用した事例研究と立花口区の古民家調査

1) 八女福島、津屋崎の見学

平成 29 年 6 月 4 日に八女福島重要伝統的建造物群保存地区を訪ね、旧八女郡役所、このみ園、旧木下家、うなぎの寝床などを見学した。街景法(国土交通省)と伝建地区制度(文化庁)の二つの制度を組み合わせて活用していることなども解説して頂いた。

平成 29 年 8 月 27 日には、伝統的建造物群保存地区に選定されていないものの、古民家を活用しているまちづくりの事例として、津屋崎を見学した。藍の家の見学の際は、藍の家保存会の柴田様から藍の家の役割や保存までの経緯についてお話を伺った。

2) まちあるき調査

平成 29 年 9 月 18 日に立花口区の大門口からの旧道に面した集落について、まちあるきを行い、建造物の特徴を把握した。また、今後、調査を実施すべき建造物を確認した。

3) 古民家調査

平成 29 年 11 月 27、28 日に上野克喜家住宅の実測調査を行った。実測調査の参加学生は 7 名であった。所有者への聞き取りによると、1850 年頃の建築とされる。(家屋台帳では明治元年) 主屋は平屋建ての寄棟造り曲屋(鉤屋)で、この地区に現存する民家としては、最も古い可能性がある建造物であった。



上野家主屋外観



叔首組

3. 地元イベントのサポート

1) 七夕まつり・竹灯籠イベント

立花口住民による荒廃したみかん畑に生息する竹を活用した竹灯籠を展示する七夕まつりや竹灯籠イベントに参加した。イベントでは竹灯籠製作や設置などのサポートを行った。



七夕まつりの様子

2) 小学生通学合宿

平成 29 年 9 月 27~30 日の三泊四日で原上公民館にて実施された地元小学生の通学合宿に、学生 7 名が参加し、サポート協力を行った。参加した立花小学校の小学生 26 名に勉強を教えたり、夕食を一緒に調理するなど、交流を図ることができた。



通学合宿の様子

□まとめと課題

全国の重要伝統的建造物群保存地区へのアンケート調査から、まちづくりには、住民の参画意識が重要であることが把握でき、地元住民のまちづくり活動への積極的な参画を促すしくみが必要と考えられる。

今後は、古民家の調査を進め、伝統的建造物群保存地区への選定を含めた歴史的資源を活用した立花口のまちづくりの方向性をまとめ、地域活性化につなげたいと考えている。